

スリップによる死亡事故の特徴 (平成28年度から過去5年 死亡事故74件84人)

【まとめ】

- 11～12月は降雪(降雨)後の数日間にわたり、**湿潤と凍結を繰り返し**、乾燥路面の中に**部分凍結が発生**するため、運転手は**急な路面状況**に対応できず、スリップ事故を発生させます。
- 発生場所はカーブより、**平坦な直線道路**が多く、**正面衝突が約7割**を占め、うち**普通車と大型や中型車両の事故が約6割**を占めています。
- スリップ事故の多くは軽傷事故ですが、**速度が速い**場合は死亡事故になるケースが多くなっています。

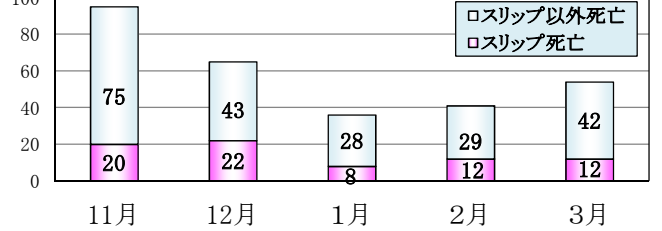
1 年別推移

	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	合計	
全人身事故件数(A)	6,756	5,847	4,919	5,094	5,230	27,846	
うち死亡事故件数(B)	69	65	49	50	58	291	
うちスリップ事故	人身事故件数(a)	1,632	1,051	811	949	1,062	5,505
	a/A	24.2%	18.0%	16.5%	18.6%	20.3%	19.8%
	死亡事故件数(b)	22	8	13	8	23	74
	b/B	31.9%	12.3%	26.5%	16.0%	39.7%	25.4%
	b/a	1.3%	0.8%	1.6%	0.8%	2.2%	1.3%
死者数	27	8	15	10	24	84	

○ 死亡事故は各年度によりバラツキが多い

各年度を比較すると、最多は昨年度(23件)で、最少は平成25年度と平成27年度(8件)であった。
最多年度と最少年度では約2.9倍となっている。

2 月別

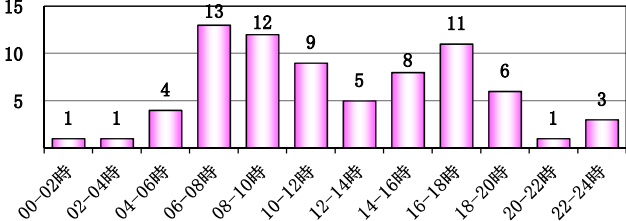


○ スリップ事故の56.3%(42件)は、11月と12月に発生

11月・12月の最低・最高気温は、融水が凍結する0度を挟み変化、**夜間はブラックアイスバーン又は凍結**、昼間は凍結路面に融水膜が発生する危険な路面状態です。

特に降雪(降雨)後の数日間は、湿潤と凍結を繰り返し、部分凍結が発生させるため、**降雪(降雨)後の数日間は注意**が必要です。

3 時間別

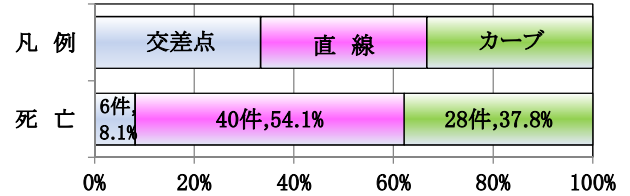


○ 6時から10時までの時間帯で発生が特に多い

6～8時の時間帯が13件で最も多く、次いで8～10時の時間帯が12件となっている。

午前は6～8時をピークに減少傾向となるが、午後は増加傾向で、16～18時がピークとなる。

4 道路形態別



○ 死亡事故は直線(40件,54.1%)が多い

発生場所はカーブより、**直線道路**で多く発生している。
直線では、**事故直前の速度が速く**、衝突の際に人身に大きな衝撃を与えるためと考えられる。

5 事故類型と第1当事車両別

	人対車両	自転車対車両	正面衝突	追突	出会い頭	車両単独	その他	合計
発生件数	1	1	50	1		18	3	74

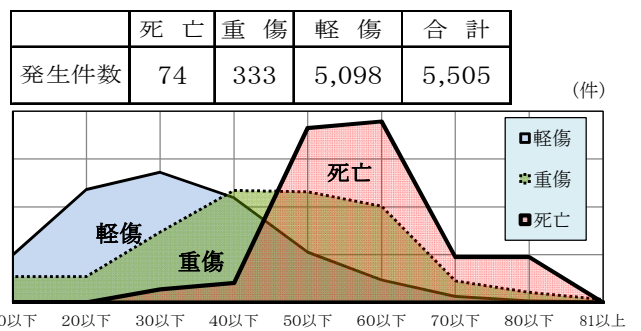
第2当事車両	第1当事車両			合計
	大型車両	普通車両	原付	
大型車両		22		22
中型車両	1	7		8
普通車両	2	16	1	19
大特その他	1			1
合計	4	45	1	50

○ 事故類型は、正面衝突が50件でスリップが起因する死亡事故の67.6%を占めている。

○ **正面衝突の第1当事者の90.0%(45件)は「普通車」で最も多く、第2当事者の60.0%(30件)は「大型車・中型車」となっている。**

「普通車」の運転手は、「大型車・中型車」とすれ違う際、「恐怖心」(心理的圧迫)等から、不用意な(ブレーキ・ハンドル)操作が要因となっていると考えられる。

6 事故前の速度と事故内容



○ 死亡事故は全件数の1.3%となっている。

発生件数は、「軽傷」が5098件(92.6%)、「重傷」が333件(6.0%)、「死亡」が74件(1.3%)となっている。

○ **「1.3%」の死亡事故になるかどうかは、事故直前の速度による。**

事故直前の速度が速くなるにつれて、人身損傷程度が大きくなり、事故直前の速度が40km/hを超えると**死亡事故の割合が高くなる。**

7 スリップによる死亡事故の発生危険箇所

平坦な直線 24件25人



直線 40件43人

死亡事故の最も多い道路形状は、平坦な直線道路で、うち「普通車×大型・中型車」の正面衝突が多くなっている。

橋梁上の一部凍結 4件4人



橋梁の手前は乾燥しているが、橋梁上のみ凍結。

トンネル内の一部凍結 4件5人



トンネルの手前は乾燥しているが、トンネル内の出入口付近が一部凍結。

樹林による日陰のため、一部凍結



樹林による日陰のため、一部凍結路面が発生。同所の手前は乾燥路面であるが、同所付近の数十メートルにわたり凍結。

カーブ 28件34人

山間部の凍結



山間部のカーブでの全面凍結。

※ 驚愕によるスリップ事故発生のメカニズム

スリップによる死亡事故は直線道路で最も多く発生し、「普通車×大型・中型車」の正面衝突が最も多くなっており、対向車線にはみ出しているのは、ほとんどが「普通車」です。

これは、大型車とすれ違う際に、普通車の運転手は「恐怖心(心理的な圧迫感)」から、不用意なブレーキ・ハンドル操作によりスリップを発生させる等、車両の制御ができなくなり、対向車にはみ出した結果、正面衝突となっていると思われます。

